

## ■編集後記

創刊1号の紀要は、出したものの後が続かず事務の北野（満輝）さんからは、「まだ出さないの」と脅迫（？）に近い催促。他大学からも問合せが殺到し、隠れられるものなら隠れたかった。

僕にとっては、かけ甲斐のない大切なものを次々に失い、苦悩のどん底であり、その上、最近の忙しさときは、とても紀要どころでは無いというのが、偽らざる心境であった。

しかし、それとは裏腹に、中国から老師を招いての「太極拳の公開講座」、本学OBの鈴木照男プロによる「ゴルフの公開講座」、それに山本（茂紀）さんの「スクバードайビング講座」を企画し、各位のご協力の結果、どの講座も大盛況であった。

ここ数年本学では、教員の補充人事もストップしているのに、悪戦苦闘しながらもどうか体育科では若い松岡（弘記）さんを増員することもできた。

また、法学科と経営学科の三好校舎への移転に伴ない、「開校時に体育館を建てておかないと第2東名高速道路が学内を横切らない限り体育館は建たないよ」と前の教養部長の佐々木（秀夫）さんに煽られ、お陰で豊橋校舎で体育館を建てるのに20年かかったのに、三好校舎ではスタートから体育館を持つことができた。

建設委員長（前）の石井（吉也）さん（現学長）を説得し、体育館には本学に不似合いのトレーニング場の一角も設けた。そこには、別に対米との貿易黒字の解消を考えた訳ではないのだがアメリカのトレーニングマシンの完成機、「ノーチラス」を装置することにした。恐らくラインでノーチラスが配置されるのは、全国の大学で初めてである。

楽しみながら、心臓が強化でき、しかも結果が残るよにということで、コンピューター・プリンター内蔵の「エアロバイク」も10機セットした。加えてリラクゼーションコーナーには、教職員にも利用して貰おうということで、スタッパーを始め最新式のリラクゼーション・マシーンも多数取り揃えることができた。

他人から「やらせられる」運動は、どのような有能な指導者によるものでも、それは有害で、自分から進んで行く「気持ちよい」運動は、どんなに細やかなものでも自分にとって有益だというのが僕の持論だが、三好のトレーニング場は、牧野建設委員長並びに建設委員各位のご理解を得て、教職員や学生が自分から進んで運動したくなるような、一度体験したらまた運動をしたくなるような「いい環境」を作ることができた、と自負している。

いよいよ4月からは、三好校舎（原田、松岡、植屋）と豊橋校舎（森、佐多、山本、新井野）の2本だでの体育で出発することになった。僕は今でもこの体制には反対である。しかし、大学全体がそういう選択をしたのだから、協力せざるを得ないだろう、というのが正直な気持ちである。

室員各位には、指導力の無い室長で、色々ご迷惑をかけたことと思うが、新しい室長のもとで愛知大学の体育が大いなる飛躍を遂げてくれることを期待して、第2号の紀要の〈あとがき〉とさせていただきます。（春見）